

4 分割法

使用方法

1. 診療記録や担当者などに確認して、項目ごとに情報を記入する。
2. 不明確な点があれば、それについて確認できる人や情報源から情報を収集して記入する。
3. 倫理検討会等での話し合いの資料として用いる。

<p>医学的適応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の医学的状況について <ol style="list-style-type: none"> 1) 病歴は？ 2) 診断は？ 3) 予後は？ 2. 問題となっている治療・処置の目標は何か？ 3. その治療・処置を第一選択とする根拠は十分か？ 4. その治療・処置以外の選択肢はあるか？ (それを第一選択としない理由はあるか？) 5. 医療チーム外へのコンサルテーションは必要か？ (他科、他部門、他院、セカンドオピニオン等) 6. 要約すると、この患者が医学的および看護的ケアからどのくらい利益を得られるか？ また、どのように害を避けることができるか？ 	<p>患者の意向</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者には判断能力があるか？ その根拠は？ 2. 〔判断能力がある場合〕 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者はどんな意向を持っているか？ 2) その意向は、十分な説明を受け、十分に理解した上でのものか？ 3. 〔判断能力がない場合〕 <ol style="list-style-type: none"> 1) 適切な代理人は誰か？ 2) その人は患者の最善利益を代弁しているか？ 3) 患者は以前に意向を示したことがあるか？ 4) それを示す文書、メモ、証言はあるか？ 4. 要約すると、患者の選択権は倫理・法律上、最大限に尊重されているか？
<p>QOL</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 苦痛について <ol style="list-style-type: none"> 1) 問題となっている治療・処置によって、患者の苦痛は増大もしくは緩和されるか？ 2) その苦痛に対する緩和ケアは必要か？ 可能か？ 2. 問題となっている治療・処置が、患者のQOLに与える影響について <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者の精神状態への影響は？ 2) 患者の生活面（家庭、職場、学校、地域社会等での生活）への影響は？ 3) それらの影響は、上に挙げた医学的な目標と比較して十分に小さいと言えるか？ 4) それらの影響が大きなものである場合、回避する手段はあるか？ 3. 要約すると、この患者が受ける医学的側面以外の影響が十分に考慮されているか？ 	<p>周囲の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 問題となっている治療・処置について、家族はどう考えているか？ 2. それについて家族間で十分な合意があるか？ 3. 問題となっている治療・処置について、医療者側には十分な実施能力があるか？ 4. 問題となっている治療・処置について、法律やガイドラインは遵守されているか？ 法律の専門家へのコンサルテーションは必要か？ 5. その他、特に考慮すべき要因について <ol style="list-style-type: none"> 1) 経済的な問題（患者側、医療者側）はあるか？ 2) 臨床研究、利益相反、教育・研修に関わる問題はあるか？ 3) 宗教・文化慣習等の問題はあるか？ 6. 要約すると、この患者と医療チームが置かれている環境の各種の側面が十分に検討されているか？

〔出典：宮坂道夫『医療倫理学の方法 第3版』 p. 67〕